様式１

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
作成（所管課）	商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課

○ 経営目標設定の考え方

ミッション

○千里・北大阪地域を中核とし、研究者・製薬企業が参集・交流し、優れた研究者が育成され、新たな医薬品・技術の開発へとつながるライフサイエンスの「知の交流拠点」としての役割を果たす。

■ 大阪府の施策

・ライフサイエンス産業の振興

基本方針

１　研究交流・人材育成事業

ライフサイエンスの発展を担う人材を育成

２　研究助成事業

優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成

3　実用化支援事業

大学・研究機関等の研究成果の民間における実用化を支援

４　普及・啓発事業

ライフサイエンスの重要性を啓発し、知識・成果の普及に努める

５　法人運営の安定化

より効率的・効果的な事業運営等に努める

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

①産学官の研究交流促進と研究人材の育成

・千里ライフサイエンスセミナー参加者数
【1,776人(最大ｱｸｾｽ数)752人(延べｱｸｾｽ数)(R3実績：6回)
→各回平均300人(R8)】
・千里ライフサイエンスセミナー広域参加者率
（京阪神以遠・各回平均）
【40.3％(R3実績)→30.0％(R8)】

②研究助成寄付金（3,000万円）の獲得による優れた若手の先進的研究の積極的な支援・助成

・岸本基金研究助成応募件数
【245件(R3実績)→ 200件(R8)】
・岸本基金研究助成広域からの応募(近畿圏以外)
【73.5％(R3実績)→ 60.0％(R8)】

③研究成果の実用化を支援

・技術講習会参加者数
【技術解説32人(R3実績平均)・技術実習(R3未実施)
→ 技術解説50人・技術実習10人(R8)】

④ライフサイエンスの情報発信拠点づくり

・千里ライフサイエンスフォーラム会員参加者比率(各回平均)
【48.4％(R3実績)→ 66.7％(R8)】
・ホームページ総アクセス件数
【12,619件(R3実績)→ 13,000件(R8)】

⑤経営基盤の強化

・効率的・効果的な資金運用
【運用益1.03億円(R3実績)→ 0.90億円(R8)】

様式２

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

○ 令和4年度の経営目標達成状況及び令和5年度経営目標設定表

Ⅰ．最重点目標（成果測定指標）

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値〔見込値〕	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画（R4～R8） R5 目標値	中期経営計画（R4～R8） 最終年度目標値	R5目標設定の考え方（数値の根拠）※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー参加者数（各回平均）（リアル参加者数＋Web延ベアクセス数）		人	30	752	644	×638	－	－	－	－	－
	千里ライフサイエンスセミナー参加者数（各回平均）（リアル参加者数＋実人数アクセス数）	☆	人	－	－	－	-	300	30	300	300	・R5年度は国際シンポジウムを含め計6回全てハイブリッド開催を予定している。 ・Web参加者数は、実人数アクセス数が把握できるようになったが、R4実績は最後の1回のセミナーだけなので、延ベアクセス数に占める実人数アクセス数の率がサンプル数が少ないことから不確定。 ・よって、中期経営計画の目標値に設定。

法人経営者の考え方（取組姿勢・決意）		戦略目標達成のための活動事項
最重点とする理由、経営上の位置付け	○財団は設立当初より、ライフサイエンス分野の発展を担う創造性・独創性豊かな産・学・官の研究人材の育成・質的向上を支援する事業を特に重要な事業と考えている。 ○実績を見ても千里ライフサイエンスセミナーや新適塾の参加者満足度調査ともに一定の評価が確立してきた。そこで千里の地から全国への情報発信を狙いとし、旬のテーマを選び全国の第一線の研究者を招いて実施しているセミナーを最重点目標としたい。 ○この場での触発を通じ、新たなイノベーションを生み出す若手研究人材の裾野を広げていくことこそが、財団の設立精神である「知の交流拠点」を実現したものであることから、産学官の研究交流促進と研究人材の育成を目指した千里ライフサイエンスセミナーへの参加者数を、最重点の成果測定指標とした。	○セミナーの個別テーマについては、企画委員会で十分協議し、各テーマと担当コーディネーターを具体的に選定。 ○北海道から九州まで各大学、研究機関の第一線研究者から選定し、全国から幅広く参加者を募っている。また、若手研究者からの発表も可能となるよう、発表時間（短時間）を工夫している。 ○セミナー参加者の増加に向け、関係する学会誌・業界専門誌及び各ホームページなどへの無料掲載等により周知・広報に努めている。 ○R5年度はハイブリッド開催を原則とする。 ○年度当初にテーマ、コーディネーターを決め、年間スケジュールを広報する。
最重点目標達成のための組織の課題、改善点	○企画委員会で各委員（アカデミア・企業の22名）から旬のテーマ提案を募り、協議の上、毎年5テーマを選定し、これらのテーマに関する日本を代表する研究者をコーディネーター候補に選定。当該コーディネーターに、発表者選定を委任する運営を確立し、魅力あるセミナーの企画を行っている。 ○今後も、積極的な広報活動や新鮮でエキサイティングなテーマ設定、当日の意見交換の場の確保などにより、参加者及び満足度の安定的な確保を図るとともに、全国的なライフサイエンスの拠点として広く認知され、より幅広い人材の交流がなされるよう、取り組んでいく。	
活動方針	○事業の企画等を検討する企画委員会において、上記を踏まえた十分な検討を行い魅力ある旬のテーマ設定やコーディネーター・講師の選定を行う。	

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

Ⅱ．設立目的と事業内容の適合性（事業効果、業績、CS）

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値〔見込値〕	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画（R4～R8） R5 目標値	中期経営計画（R4～R8） 最終年度目標値	R5目標設定の考え方（数値の根拠）※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー広域参加者数（京阪神以遠・各回平均）		人	10	216	150	242	ー	ー	90	90	中期経営計画の考え方はセミナー参加者300人の30%で各回平均90人と設定。これに基づきR4のセミナーWeb参加申込者（定員500人）の30%で各回平均150人に設定	ー
	千里ライフサイエンスセミナー広域参加者率**（京阪神以遠参加者数/総参加者数）**	☆	%	ー	(40.3)	ー	(47.1)	↓35.0	10	30.0（90人/300人）	30.0（90人/300人）	中期経営計画30%とWeb配信を開始した年度以降の平均約40%との中間値に設定	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。
② 研究助成寄付金（3,000万円）の獲得による優れた若手の先進的研究の積極的な支援・助成	岸本基金研究助成応募件数		件	10	245	200	×191	200	10	200	200	中期経営計画の目標値に設定	財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。
	岸本基金研究助成 広域からの応募（近畿圏以外） （近畿圏以外応募件数　／　総応募件数）		%	10	73.5	60.0	72.8	↓60.0	10	60.0	60.0	中期経営計画の目標値に設定	全国の主要大学に応募要領を送付するなど積極的な周知を図るとともに、研究助成業務支援システムの活用により、全国から応募しやすい体制づくりを行う。
③ 研究成果の実用化を支援	技術講習会参加者数 （目標値；上段「技術解説」下段「技術実習」）		人	10	18 (コロナのため中止)	50 10	65 14	↓50 ↓10	10	50 10	50 10	中期経営計画の目標値に設定 ※すべて達成の場合のみ加点	関係学会、関係企業への広報及び財団HPへの掲載に加え、財団のメール会員への広報を行う。
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム 会員参加者比率（各回平均） （会員参加者数　／　会員数）		%	10	48.4	66.7	72.8	↓66.7	10	66.7	66.7 (会員数150)	中期経営計画の目標値である会員数の2/3（＝66.7%）に設定	会員の高齢化とともに新会員の増加が課題となっているが、会員にとって魅力あるフォーラムとするため、ライフサイエンスのみならず様々な分野のトピックを取り上げ、新規会員の獲得を行う。
	ホームページ総アクセス件数（月平均）		件	10	12,619	13,000	13,017	↓13,000	10	13,000	13,000	中期経営計画の目標値に設定	財団HPのコンテンツ充実、新規セミナーの掲載案内、メルマガへの掲載依頼等を通じ、財団HPへのアクセス件数の増を図る。 （Zoomウェビナーの活用等HPを経由しないでWeb聴講できるようにしたため、アクセス数減少の可能性がある。）

Ⅲ．健全性・採算性（財務）、 コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上（効率性）

⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用		億円	10	1.03	0.90	1.08	↓0.90	10	0.90	0.90	中期経営計画の目標値に設定	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。

【凡例】
・☆はR5年度からの新規項目
・×は目標値未達成
・↓は前年度実績比マイナスの目標値
・〔　〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
・（　）内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

様式３-②

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

ＣＳ調査の実施概要

○令和４年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	755	年5回開催

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
セミナー開催時に、参加者に対しセミナー内容に関するCS調査を行った結果、「大いに役立った」+「役立った」が5回平均94.3%（（「大いに役立った」+「役立った」）/全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」））であった。	（結果を踏まえ実施した取組） 企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、引き続き魅力ある旬のテーマ、講師の選定を進め、参加者の今後に役立つセミナーを維持していく。 （今後実施予定の取組） アンケートの満足度だけでなく、自由意見の中から改善点を見つけ出し、引き続き、安定的なセミナー参加者の満足度（「役に立った」以上）を確保する。

○ 令和５年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	1,800	年6回開催

様式４

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

〔１〕

成果測定指標	単位	R４年度目標値	R４年度実績値	目標値との差
千里ライフサイエンスセミナー参加者数（各回平均） （リアル参加者数＋Web延べアクセス数）	人	644	638	△ 6

	未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	第4回開催セミナーの参加者数の減少				第4回を除く他の4回のセミナー参加者数は下は467人から上は947人であったが、第4回（R4年11月30日開催）だけ309人だった。この理由は、テーマが「脳の情報処理研究の最前線：神経コーディングやオシレーションを中心として」とニューロサイエンスの中でも特に専門的領域であり、一般的なアカデミア、研究者には、敷居が高いテーマであったため。						財団の使命は一般受けするテーマだけでなく、アカデミア、研究者にとって有益となる専門性の高いテーマも開催する必要があり、テーマ毎に専門性の高いもの、領域が狭い（ニッチ）ものなど大きく異なるので、テーマを踏まえて適切な目標を設定する。
	関連項目名	第４回参加者数	単位	人	R4当初想定値	644	R4実績値	309	差	△ 335	
②											
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差	0	
③											
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差	0	

様式４

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

〔２〕

成果測定指標	単位	R４年度目標値	R４年度実績値	目標値との差
岸本基金研究助成応募件数	件	200	191	△ 9

	未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	大阪大学からの応募件数の減少				大阪大学は、日本財団からの助成（今後10年間で230億円）、大学債（300億円分）、AMEDからの助成など研究資金が豊富であったことで、例年と比べ応募件数が減少した。						全国のライフサイエンスを研究テーマとしている大学に幅広く応募要領を送付するなど積極的な周知を図るとともに、大阪大学については、直接、医学研究科長及び大学内の関係部署に研究助成の応募について連絡し、大学内での幅広い広報を依頼する。
	関連項目名	大阪大学からの応募件数	単位	件	R4当初想定値	25	R4実績値	13	差	△ 12	
②											
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差	0	
③											
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差	0	

様式５

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

■　成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔１〕

●変更前

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
千里ライフサイエンスセミナー参加者数 （各回平均） （リアル参加者数＋Web延べアクセス数）	人	644

●変更後

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
千里ライフサイエンスセミナー参加者数 （各回平均） （リアル参加者数＋実人数アクセス数）	人	300

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	昨年度の審議会において、ウェブ参加者数の集計を延べアクセス数とした場合、数値が上振れする可能性がある点について指摘を受け、的確な測定方法について実績等を踏まえ随時見直すこととしていた。 令和４年度の配信委託業務の見直しにより、最後のセミナーから実人数アクセス数が把握可能となったため、今後は実人数アクセス数を指標とする。ただし、実人数アクセス数をカウントできたのが現状１回だけであり、サンプル数としては不足しているため、令和５年度の目標値は中期経営計画の成果目標と同値の各回平均300とする。 なお、令和５年度の実績値を踏まえ、目標値は適宜検証していく。

〔２〕

●変更前

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
千里ライフサイエンスセミナー広域参加者数 （京阪神以遠・各回平均）	人	150

●変更後

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
千里ライフサイエンスセミナー広域参加者率 （京阪神以遠参加者数/総参加者数）	%	35

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	R4成果測定指標は、中期経営計画における考え方（「セミナー参加者目標300人の30%で各回平均90人」）に基づきWeb参加者数（定員500人）の30%である各回平均150人に設定した。しかし、セミナー参加者数は回によって変動し、広域参加人数を指標とした場合、正確に成果を測定することが困難であるため、中期経営計画の考え方で用いている広域参加率を成果指標とする。

様式６

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

■ 令和４年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔１〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナー広域参加者率（京阪神以遠・各回平均）	%	47.1	35.0

マイナス（現状維持）目標の考え方	R5は原則ハイブリッド開催を予定しているので、リアル参加者が増えるとリアル参加者はほぼ京阪神からの参加のため京阪神からの参加者割合は増えることが想定される。中期経営計画では広域参加率を30%としているが、Web配信を開始したR2年度から3年間の平均広域参加率41.7%との中間値である35%とする。 R2 ⇒ R3 ⇒ R4 37.7 40.3 47.1（%）

〔２〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
岸本基金研究助成 広域からの応募（近畿圏以外） （近畿圏以外応募件数 ／ 総応募件数）	%	72.8	60.0

マイナス（現状維持）目標の考え方	岸本基金研究助成の広域からの応募（近畿圏以外）の割合は、R3年度に岸本基金研究助成10周年誌を作成し全国の大学、研究機関等に送付したことからさらに知名度が増し、72.8%と高くなった。ライフサイエンス研究に対する全国への支援は岸本基金のさらなる有効活用と財団事業の全国展開に資するものであるが、近畿圏と近畿圏以外のバランスとして60%を適正水準と考えていることから、中期経営計画の成果目標と同値とした。 H29 ⇒ H30 ⇒ R1 ⇒ R2 ⇒ R3 ⇒ R4 61.3 62.4 65.3 61.9 73.5 72.8（%）

様式６

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

■ 令和４年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔３〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
技術講習会参加者数 （目標値；上段「技術解説」 下段「技術実習」）	人	65 14	50 10

マイナス（現状維持）目標の考え方	技術講習会の適切な人数は、実習においては講師がリアルに技術指導する人数に限界があり、また研究室のキャパシティーの関係から10人がほぼ上限と考えられる。また、解説はリアルである必要がないことからWeb配信により多くの受講生に対して実施できるが、専門的な質問回答等の双方向のやりとりを考慮すれば50人程度が適当と考えられる。よって、中期経営計画の成果目標と同値とした。 R3 ⇒ R4 18 65（人） (コロナのため中止) 14

〔４〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
千里ライフサイエンスフォーラム 会員参加者比率（各回平均） （会員参加者数 ／ 会員数）	%	72.8	66.7

マイナス（現状維持）目標の考え方	会員にとって魅力あるフォーラムかどうかは会員参加率が一つの指標となる。R4年度は新型コロナウイルス感染症のためリアル開催（及びその模様を後日録画配信）は2回だけで後の7回は全て録画配信となった。R5年度は毎回全てリアル開催及びその動画配信（約1ケ月）のセットを予定しているため、R4実績をそのまま参考とできないため中期経営計画の成果目標と同値とした。

様式６

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

■ 令和４年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔５〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
ホームページ総アクセス件数（月平均）	件	13,017	13,000

マイナス（現状維持）目標の考え方	R4年度は、HPの内容を充実させ、見やすくするなどHP全体の魅力アップを図るとともに、R4年4月に財団HP全体をSSL暗号化（http→https）したことにより、HPの対外的な信頼度が増したことから目標を達成できた。しかし、セミナー等のイベント参加者等の利便性向上のため、QRコードやURL設定による目的ページへのダイレクト誘導を図っていることから、目標達成が厳しくなると推測されるが、来年度もさらにHP全体へのアクセス数を獲得できるよう魅力あるHPづくりに務め、中期経営計画の成果目標を目指すこととする。

〔６〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
効率的・効果的な資金運用	億円	1.08	0.90

マイナス（現状維持）目標の考え方	当財団は長引く低金利下において、安全かつできるだけ有利な運用を行うため資金運用の約6割を為替連動の仕組債等で運用している。 昨今、円安傾向が続いていることから高金利による運用利息を得られているが、この円安傾向が今後も長期間にわたって継続する保証はないため、中期経営計画の収支計画で見込んだ収支相償を実現するために必要な0.9億円を目標とした。